

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	平成20年 2月 17日
調査実施の時間	開始 9時 50分 ~ 終了 15時 10分

訪問先事業所名 (都道府県)	永田診療所 グループホーム (鹿児島県)
-------------------	---------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 山下 賀子 氏名 中村 朋美
事業所側対応者	職名 管理者 氏名 中園 三宏 ヒアリングを行った職員数 3名

<p>※記入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 <p>※項目番号について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外部評価項目は30項目です。 ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 <p>※用語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月 29日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4675100087号		
法人名	医療法人 慈和会		
事業所名	永田診療所グループホーム		
所在地	〒895-2813 鹿児島県伊佐郡菱刈町南浦3492番地 (電話) 0995-26-0051		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年2月17日	評価確定日	平成20年3月18日

【情報提供票より】(平成19年12月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 10人, 非常勤 6人,	常勤換算 12.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	250 円
敷 金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	150 円	昼食 250 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年12月30日現在)

利用者人数	16名	男性 3名	女性 13名
要介護1	4名	要介護2	4名
要介護3	6名	要介護4	2名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 85.3歳	最低 72歳	最高 97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永田診療所・大口病院・寺田病院・こうき歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは母体の関連医療施設等が隣接しており、入居者や家族の安心する環境となっている。ホーム周辺は温泉もあり自然環境に恵まれている。近くの屋根付ゲートボール場は、地元高齢者の交流会や六月灯祭りの会場であると共に、入居者の憩いの場となっている。子供から高齢者まで、地域との触れ合いに関しては特に力を入れた取り組みがなされている。入居者は、学校行事、地域行事に参加する機会も多く、近隣住民の来訪者もあり地域との関係が途切れることなく、生き生きと生活を楽しまれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	入居者の権利、義務については契約書に分かり易く明記し改善している。入浴に関しては、本人のペースや希望を重視しながら支援している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、評価の狙いや意義を職員に説明し、全職員で評価について話し合い、サービスの質の向上に活かそうと取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、ホームの活動内容や取り組み状況を報告すると共に、消防署のアドバイスを受け災害対策についての話し合いを持ったり、町の担当者から事故事例や新しい情報の提供を受けながら、サービスの提供に活かせるよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時の声かけや、年2回の家族会の中で、意見や要望を出してもらいよう働きかけたり、面会ノートの利用、意見箱の設置など家族の意見を運営に反映させる取り組みがなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域住民、地元の幼稚園、小学校児童との交流や地域高齢者との交流会、地域の運動会や文化祭への作品出展など、地域の一員として積極的に活動する中で、子供たちのホーム訪問や、地域から野菜や果物などの差し入れや観賞用菊の盆栽の持参など、地域住民と深く交流している。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 山下賀子 / 調査員 中村朋美

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より、住み慣れた地域での安心した暮らしを支援するため、地元の幼稚園生、小学生、高齢者との交流を大切にする地域密着型サービスを目指した理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を室内に掲示すると共に毎朝唱和し、日々のケアを振り返りながら「今日も楽しく、ゆっくりやさしく笑顔で」の理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	子供達のホーム訪問では、昔話を聞かせたり、肩もみ、車椅子の試乗や介助体験などを行っている。運動会・学習発表会への参加、持久走大会の応援、ホームの敷地内で開催される六月灯祭り、高齢者交流会「ふれあい悠遊」も恒例行事となるなど、地域住民とのふれ合いには特に力を入れ取り組まれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、自己評価の意義を理解し、自己評価は全職員で行い、昨年の外部評価の要改善項目についても検討改善の段階にある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議は2ヶ月に1回開催され、近況報告や行事の振り返り、自己評価、外部評価に向けての取り組み状況の説明、2年前経験した水害への対策など話合っている。又、町の担当者から事故事例や新しい情報提供等を受け、サービス向上に取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の他、平成18年度に立ち上げられた「伊佐地区地域密着型サービス連絡協議会」は大口市菱刈町の介護保険係が協力機関となっており、認知症ケアについての研修会に参加するなど、市町村と共にサービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行する「ゆっくり便り」は、行事やホームでの暮らしぶりが写真入りで掲載され、家族からも好評を得ている。また、面会時に近況報告をし、金銭出納帳については月1回確認してもらい家族のサインも受けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、年2回の家族会の場で意見や希望を聞くよう働きかけている。家族の訪問時は声かけを行い、何でも話してもらえるような雰囲気を作り家族の意見を運営に活かすよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規採用者は地元の人を優先的に採用したことで、入居者の受け入れもスムーズとなっている。又、入居者のダメージを防ぐため職員の異動はしていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成の重要性を認識し、随時の外部研修案内を全て回覧して職員の希望する研修に交代で参加させ、その研修内容は研修報告書を回覧して他の職員に伝達している。内部研修もAEDの使用方法等随時実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「始良伊佐地区認知症グループホーム連絡協議会」による1回目の研修に参加して、事例発表やグループワーク勉強会などの交流を図っている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、お茶や食事の時間を利用し気軽に過ごしてもらうことで、入居者や職員と馴染めるよう配慮している。 入居後も家族と密に連絡を取り合い、本人の希望を優先できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から漬物、味噌、そば打ちなど得意料理を教えてもらいながら、一緒に作っている。 教育勸語や人生の教訓、昔ながらの行事など日々の生活の中での会話を大切にしながら、楽しく笑いながら支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、表情から意向を読み取ったり、自分で選択できる場面を多く作る工夫をしている。本人の希望が叶うよう21時に焼酎コップ1杯の飲酒や、帰宅願望の強い方への電話や面接依頼、外出等個別に把握し対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人家族の意向や希望を聞いたり、主治医からの指示による身体的機能を考慮した介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期的な見直しを行い、急変時や状態の変化時は、経過記録の評価欄に主治医が記入したり、必要事項は申し送りノートで送っている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況を考慮しながら、墓参りなど外出の支援、精神科認知症デイケアへの通所、同敷地内の診療所への受診、デイサービス施設へのリハビリなど柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ 医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所への通院治療はもとより、歯科受診や往診の支援をしている。又、他の医療機関との協力体制も確立し、入居者は安心して		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時と急変時には主治医が家族と話し合いを持ち、重度化や終末期に向けた方針を明確にして、インフォームドコンセントを行っている。各ユニットに看護職員1名ずつ配置し、本人や家族の希望に応じた看取りの対応がなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、入居者のプライバシー保護や個人情報保護の重要性を職員に説明している。職員は排泄ケア時などのさりげない声かけや対応の有り方にも注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の状態に合わせて、起床や食事、入浴の時間をずらしたり、その時々 の希望で焼酎や饅頭を買いに行ったりと、柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム横には近隣の方が作られた野菜畑があり、入居者が自由に採取できるようになっている。季節の野菜を調理したり、配膳下膳の手伝いをしたり、無理強いすることなく入居者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉が出るため、いつでも入浴できる状況である。入浴日や入浴時間は決めている。入浴拒否時は時間をおき再度すすめたり、下半身シャワー、足浴するなどの支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や趣味を考慮しながら、園芸、炊事、掃除、裁縫、お手玉作り、歌、はり絵、週刊誌のクイズに応募する等、一人ひとりの楽しみごとを優先させた気晴らしの支援となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、ホーム横の神社やゲートボール場、花菖蒲園が散歩コースとなっている。又、日常の買い物の同行や、マイクロバスを利用したショッピングや花見、そうめん流し等の外出の機会を設けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りと気配りを重視し、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2年前の水害の経験から消防団や近隣の住民の協力体制も充実している。日中の防災訓練も年2回実施しているが、夜間を想定した避難訓練が未実施である。	○	夜間の避難訓練に向けた取り組みが求められる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病食や食欲のない入居者への対応は、併設通所リハビリテーションの栄養士にアドバイスをもらっている。食事量を記入したり定期的に体重測定を行い栄養状態を把握している。水分不足が起こらないよう確保に工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム周囲にオキナ草が植えられ、玄関はプランターに季節の花が植えられている。廊下やリビングには、ソファも用意されくつろげる雰囲気となっている。入居者の作品も数多く飾られ季節感をかもし出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望でたたみ部屋となっている居室もある。各居室にはテレビや衣装ケース、家族の写真、孫の手作り作品等も飾られ、本人が居心地よく過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。